

白神の絆

初冬の白神山地



【発行】林野庁 東北森林管理局
津軽白神森林生態系保全センター

住所：青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字東阿部野 70-82
TEL：0173(72)2931 FAX：0173(72)2932

親子での木工教室を実施しました

秋晴れの下、西目屋村白神山地ビジターセンター主催のイベント「ビジターセンターふれあいデー」が10月17日（土）、18日（日）2日間にわたり開催され、津軽白神森林生態系保全センター職員3名が参加しました。

青森県下では新型コロナウイルス感染拡大の兆候が見え始め、開催にあたり主催者側は慎重に検討した結果、実施を決定したとのことでした。

感染防止措置を徹底すべく、入場箇所を1箇所限定、来訪された方全員に検温、アルコール消毒、住所、氏名、連絡先を記載してもらい、スタッフにはフェイスシールドが手渡されました。

木の良さを感じてもらい、ふれあう機会として例年行っている木工教室においては、受付・抽選時の密集を避けるため、事前予約制とし、一回あたり20組で実施していたところを今年度は6組に限定しました。

製作においては皆さん真剣に説明を聞き、釘が曲がらないよう一生懸命カナヅチを打ち下ろし見事にイスやプランターを作っていました。

2日間計6回を予定していましたが、感染拡大の不安からか急遽キャンセルされた方もあり、5回で36人の子供さんに体験してもらいました。

アンケートを回収したところ、「木にふれる機会を増やしたい」、「親子で楽しくできた」「自宅でできない木工ができて、よい経験になった」などの回答があり、コロナ禍ではありましたが、とても良いイベントになったことと思います。

今後も一般の方に木の良さを感じてもらおう機会を継続していきます。（小倉）



入場口で検温・消毒を実施



親子で協力して製作中

ニホンジカの越冬地調査を行いました

当センターでは毎年冬になると、ニホンジカの越冬地を調査するためにセンサーカメラを設置しています。昨年度は計16台のカメラを設置して、2頭のニホンジカが撮

影されました。今年の計画では、ニホンジカの越冬地をより広く監視するために例年より3台多くカメラを設置する予定です。

その設置場所候補を調査するため、過去にニホンジカの痕跡があった場所に行ってきました。計3か所の調査地に行ったのですが、3か所とも地面から生えている植物が食べられている光景が伺えました。しかし、なんの動物に食べられているかはすぐに明らかにすることはできません。その植物が食べられてから1ヵ月以内に植物を採取する必要があると教えられました。また、ニホンジカの痕跡は植物を食べた痕だけではなく、なんと糞も痕跡として発見されることが多いです。それを採取するなんて気が引けますが… ニホンジカとカモシカの糞や足跡などの痕跡はとてもよく似ていて、DNAレベルで調査する必要があるため、ためらいはありますが、糞を採取するのは、信頼性の高い調査方法なのです。

ニホンジカは生えている植物をほとんど食べてしまうので、白神山地に定着してしまうとその生態系に大きな脅威となります。毎年、センサーカメラには数頭のニホンジカが映るのですが、それは通りすがりの個体であると言われています。しかし、冬間にニホンジカが高頻度で映ってしまうとなると、白神山地周辺の地域に定着している可能性が出てきてしまいます。越冬するということはその地域を住み家にしつつあるということなので、それを調査するために当センターが実施しているニホンジカの越冬地調査は大変重要なものとなっています。



このような、郊外で良くみられるスギ林を隠れ家としていることが多いそうです。普段は林の近くにある開けた平らな場所で過ごしますが、危険を察知するとすぐ隣にあるスギ林の中に隠れるそうです。



上記の写真にある白い線で示されている道のようになっているところが、動物の通り道になることが多いです。このような道のことを「獣道」と言います。ニホンジカも獣道を使って移動するので、カメラを設置する場合はこの獣道が映るように設置するようにします。(木村)